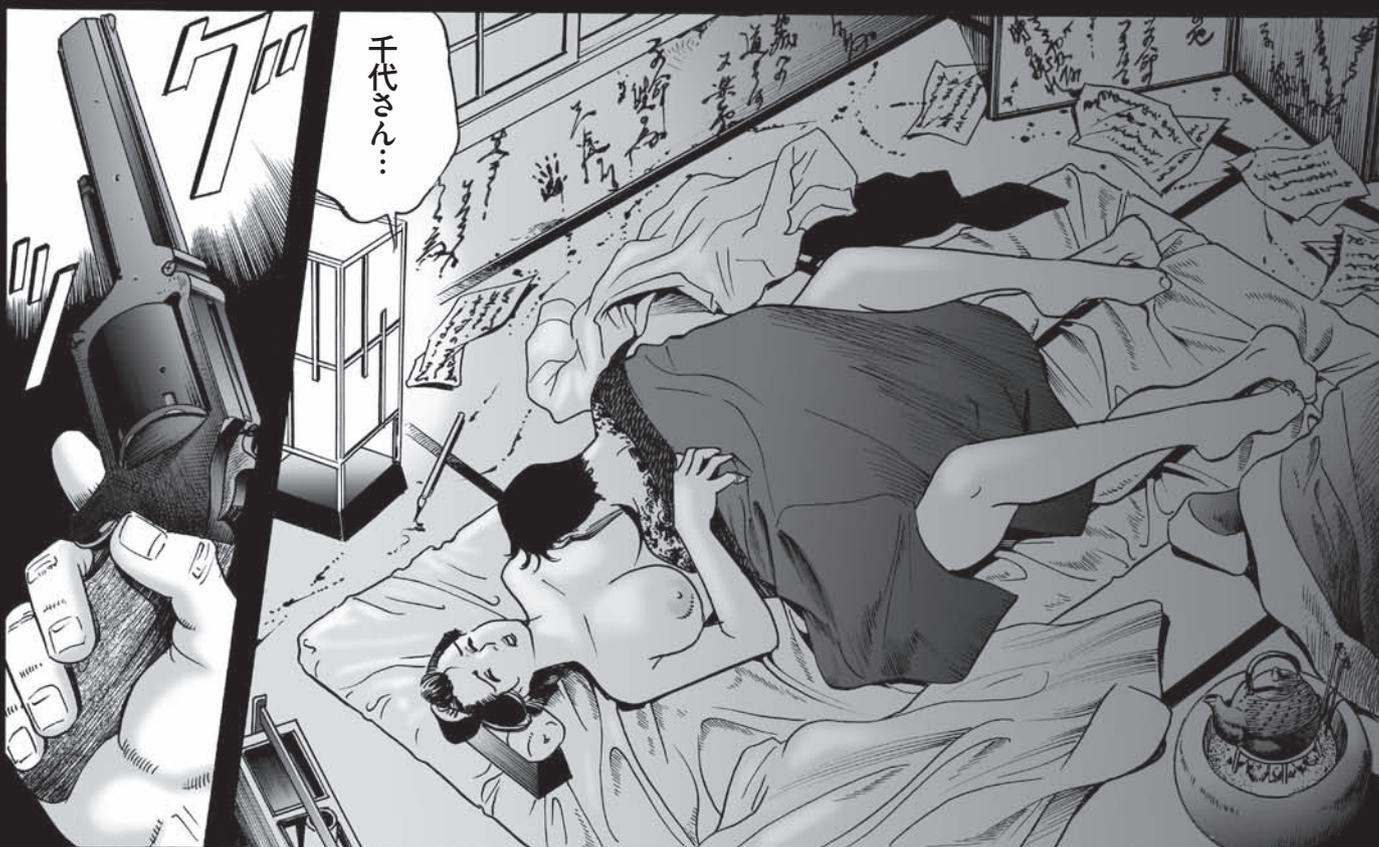
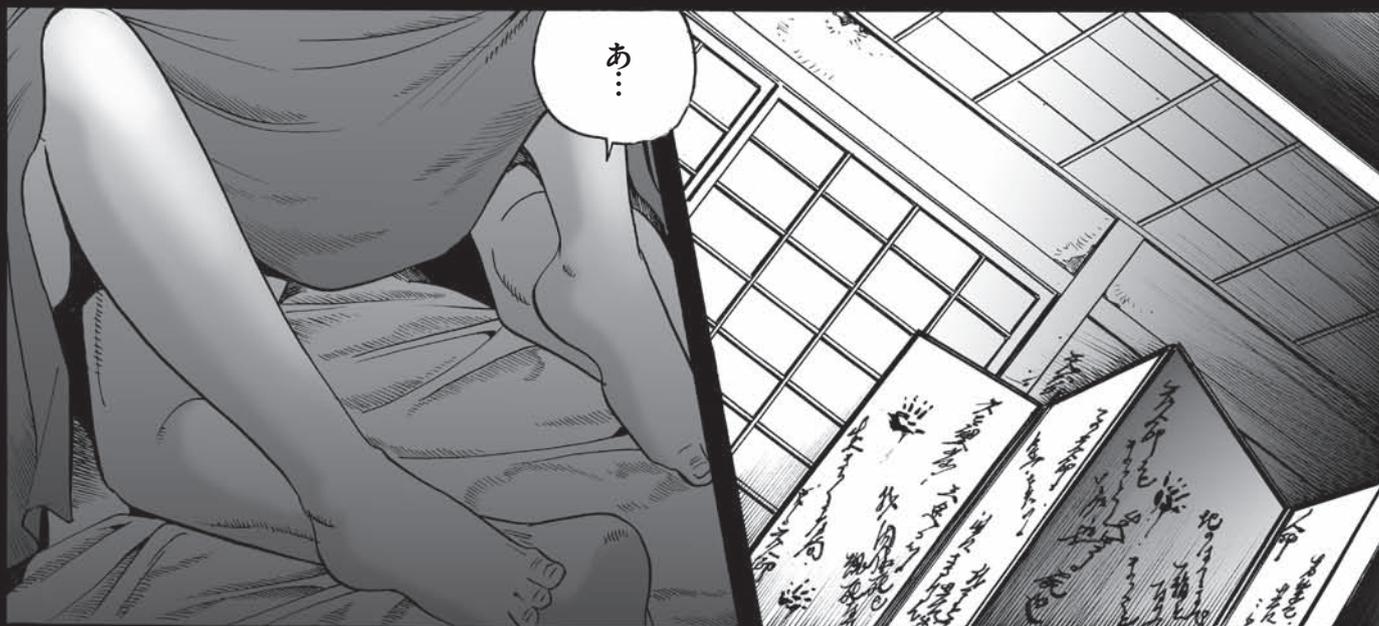


明治33年3月
すすきの
札幌薄野遊郭
「長谷川楼」



明治期を駆け抜けた伝説の彫師物語

摩周子

Mashuko

HORICHYO

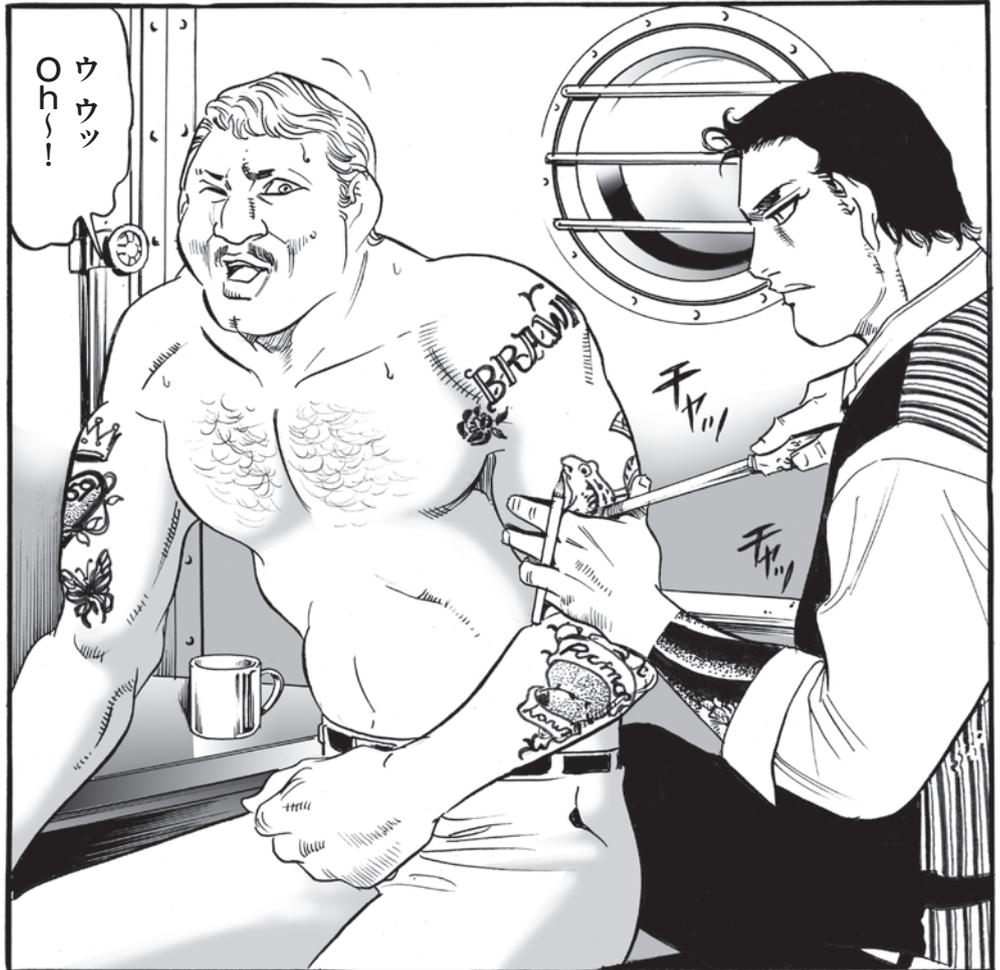
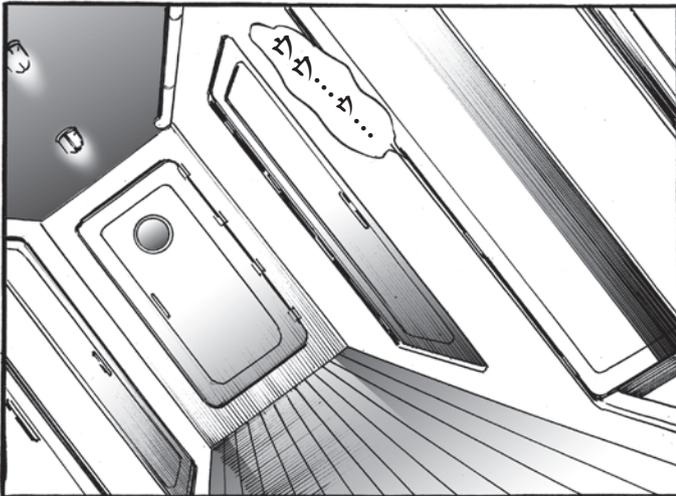
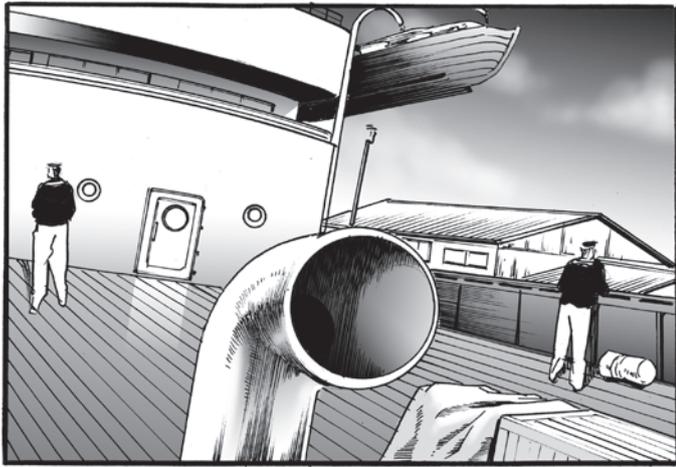


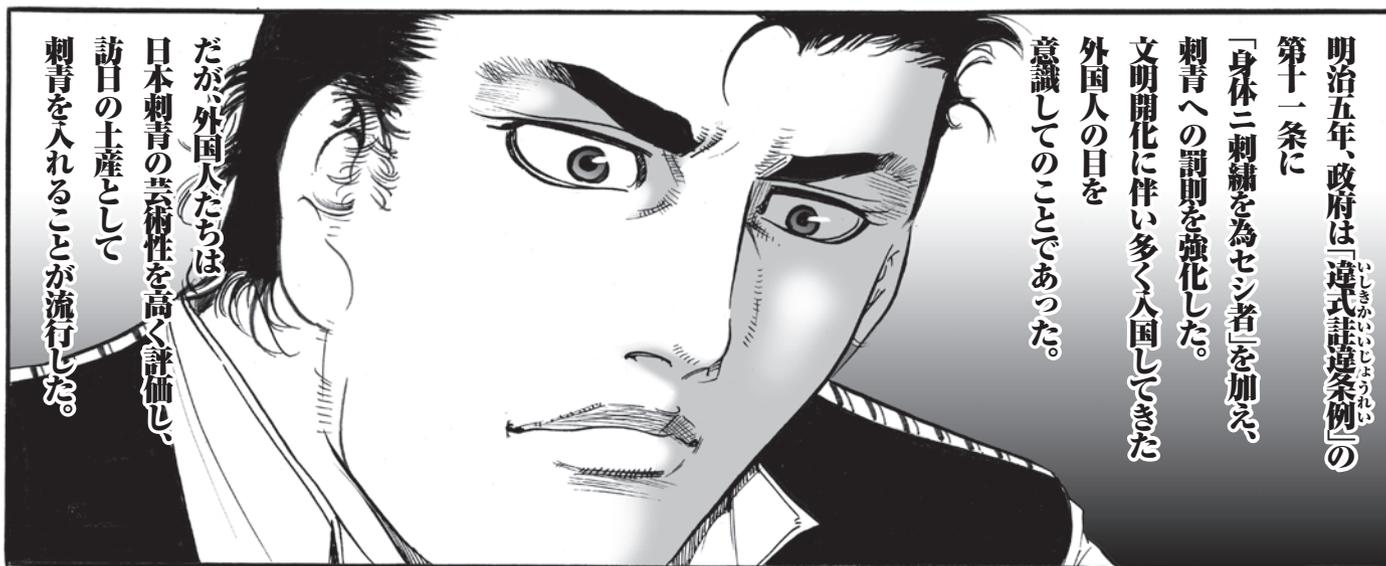
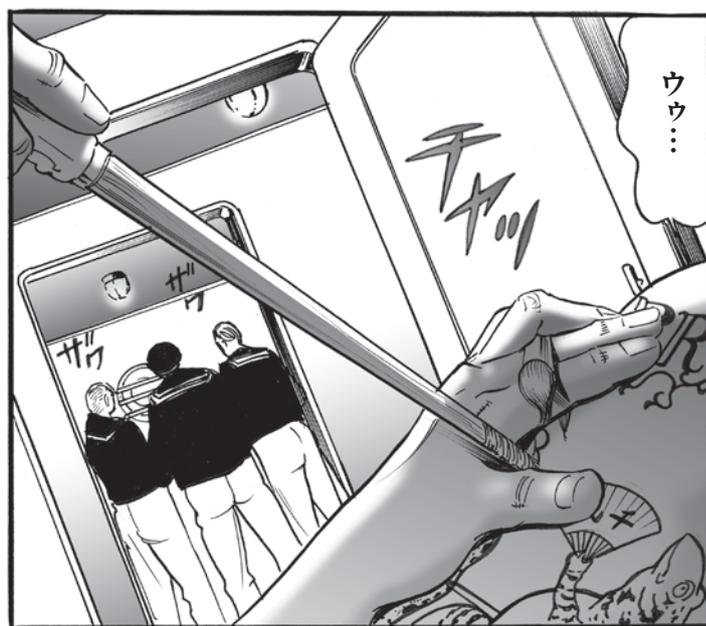
The emperor

彫師

第一話「序章・彫千代」

さかのぼること8年前
明治25年横浜





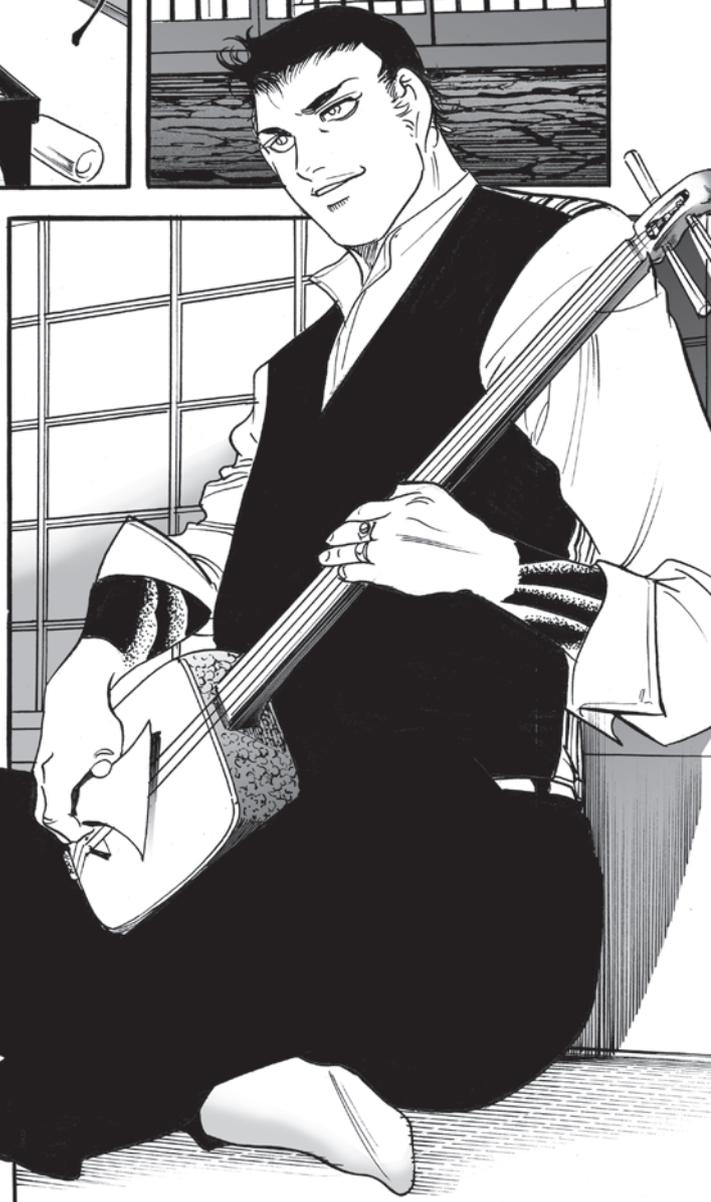
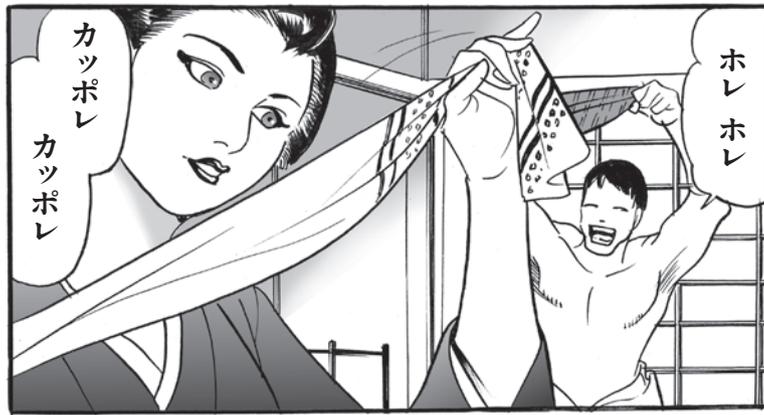








※1本11分30分 4本11分2時間。1本の線香の消える時間が30分としてるから。





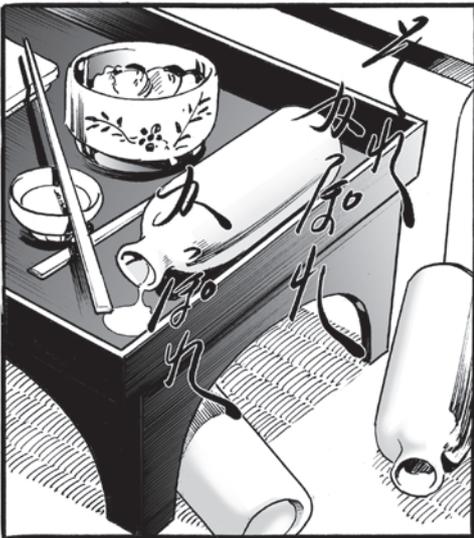
千代さん
千代さん

よし
今日はとことんだ



なに言ってる
いま流行の天然痘(※)で明日
ポツクリ逝くかもわからねえ
楽しめることは今日のうちよ

そつえば
親戚の甥っ子が
やつぱり天然痘で
逝っちまったなア



お三味線ばかり
弾いてないで
踊りましょ

よつしゃ!
景気よく
踊るか



座敷が引けたら
少ねえ錢だが
こいつを増やして
もうちと
遊ぼうぜ



ちょうど今日は
小甘賀一家が小盆を
開いてるって

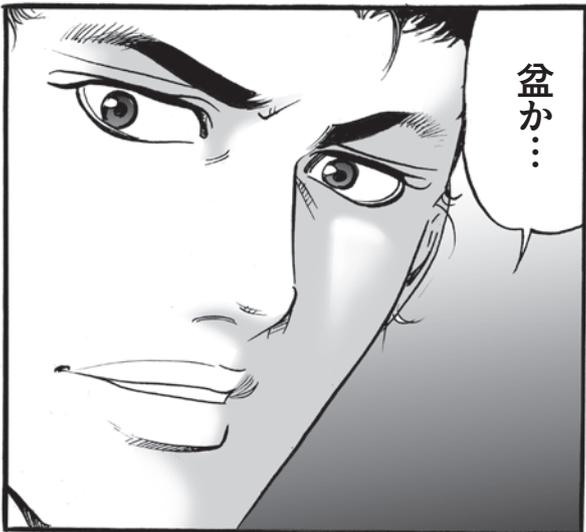
お返しなんて
いらねえよ
こつちも
楽しんでんだ



いつもいつも
千代さんに世話に
なりっぱなし…

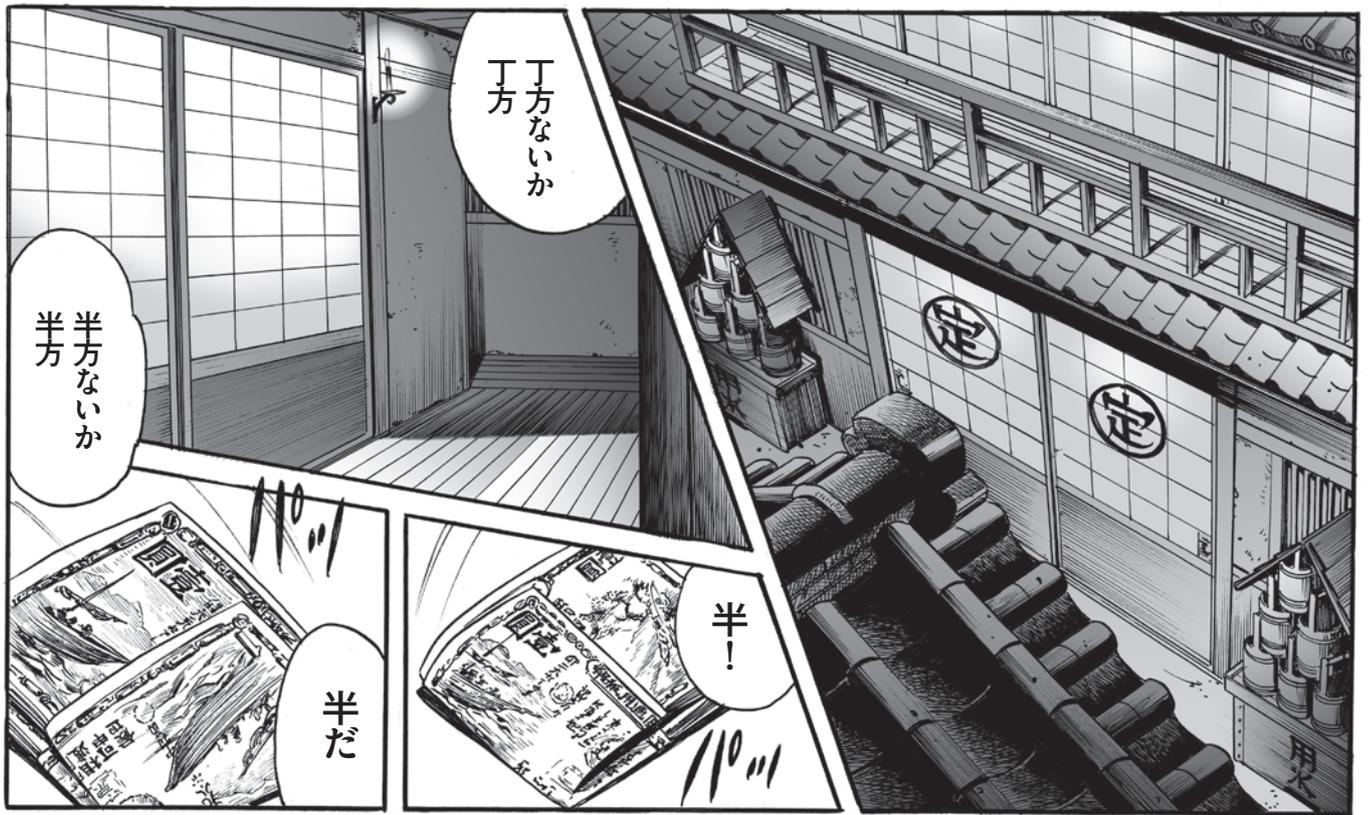


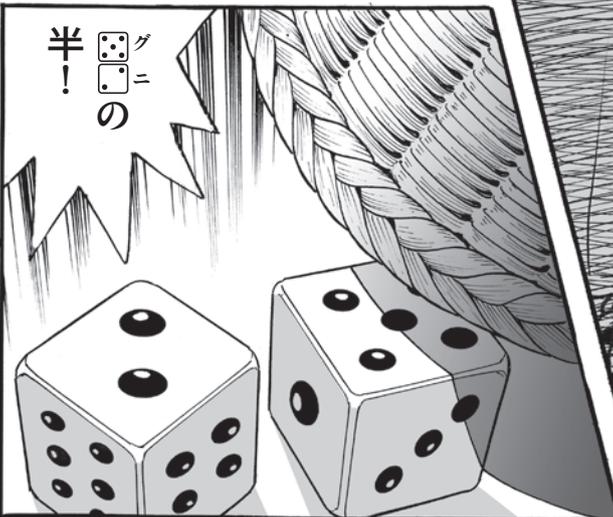
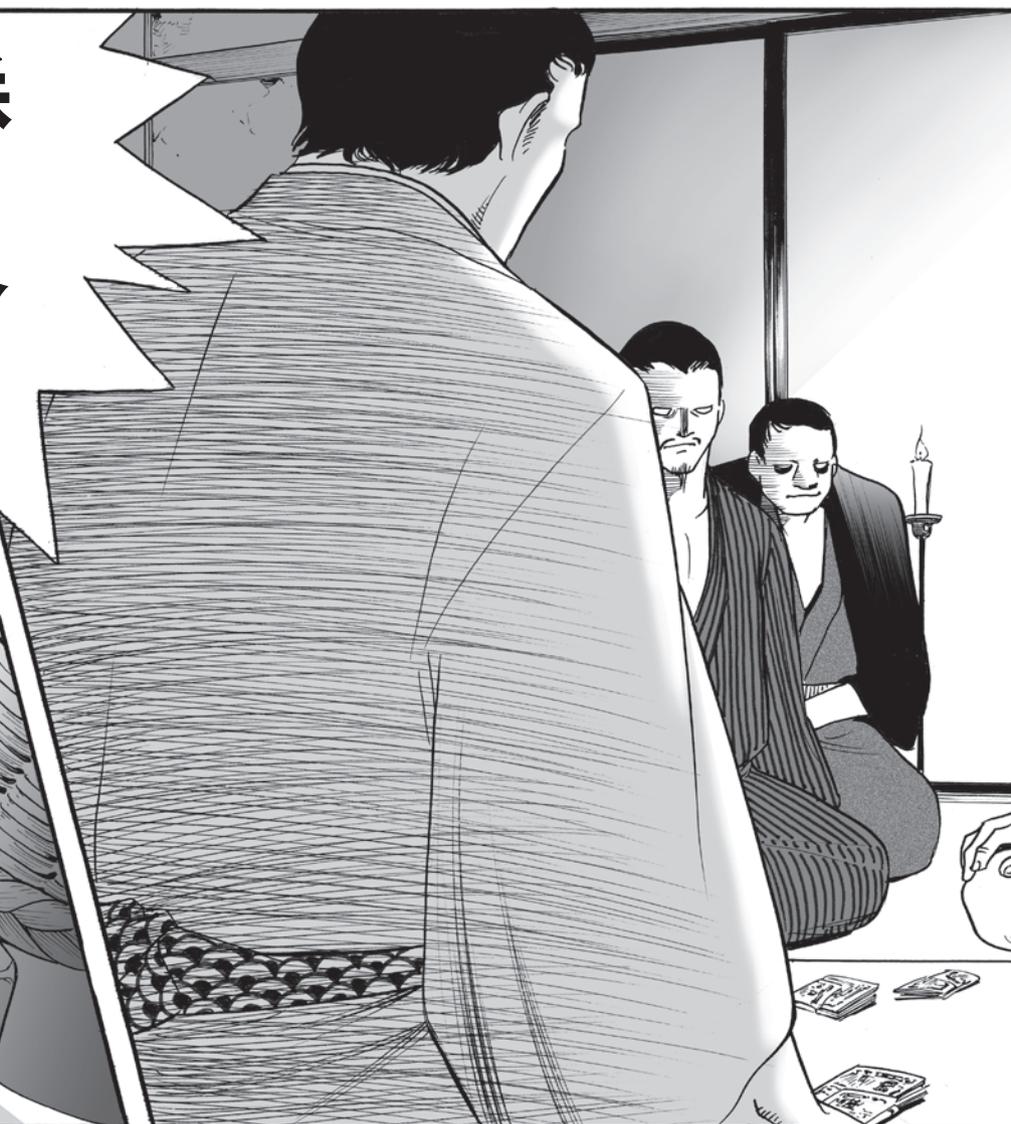
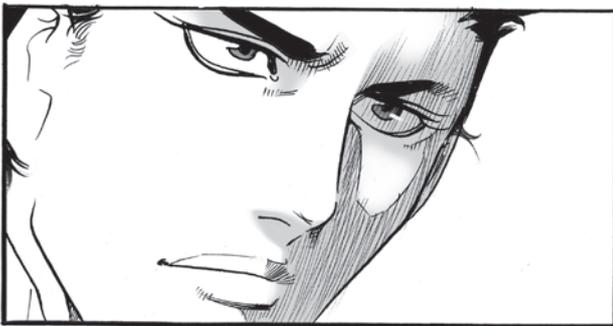
たまには
お返しさせて
もらわねえと
バチが当たるって
もんよ

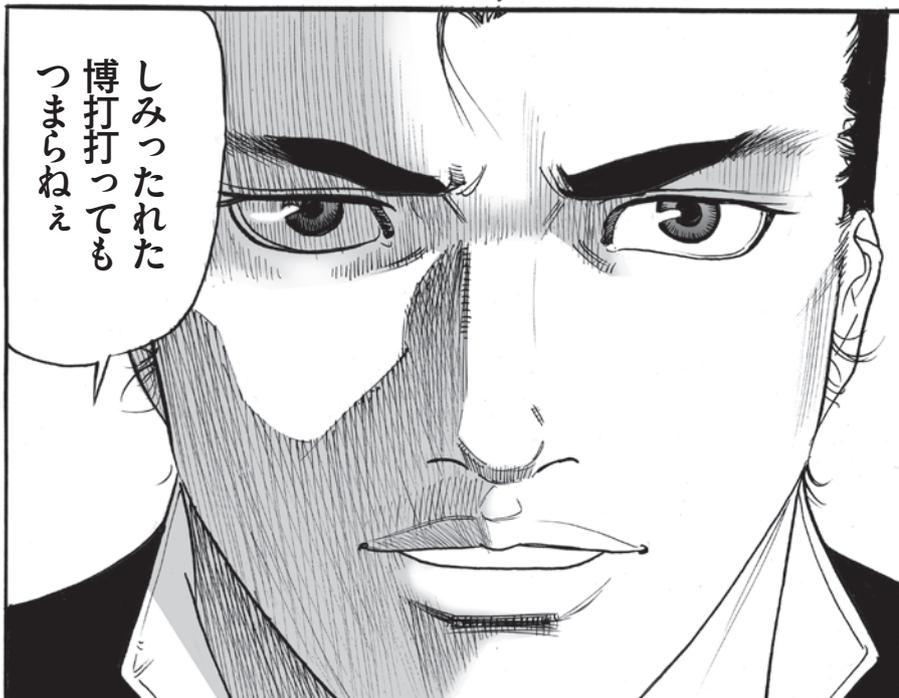
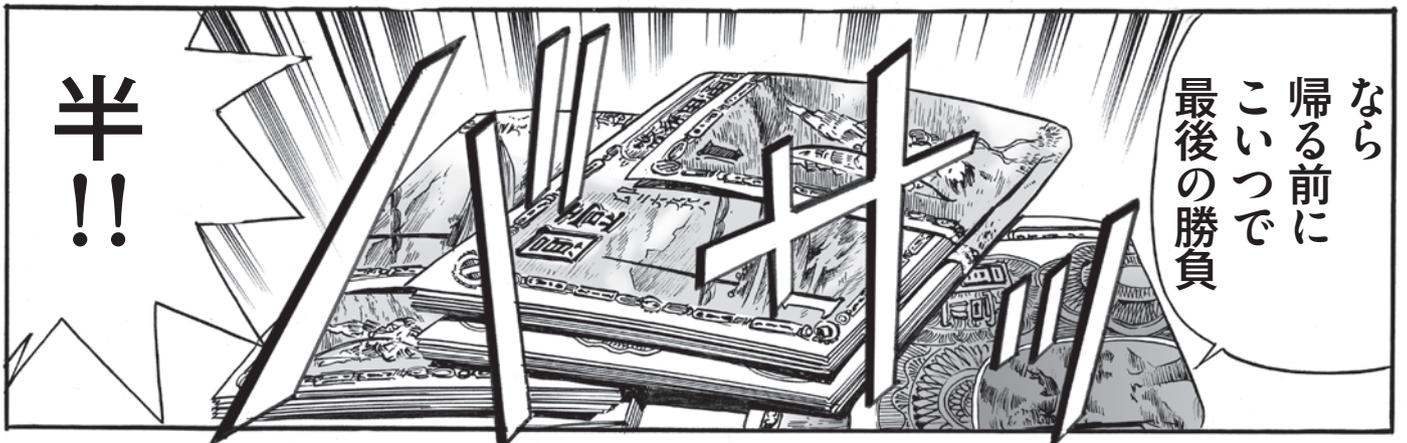


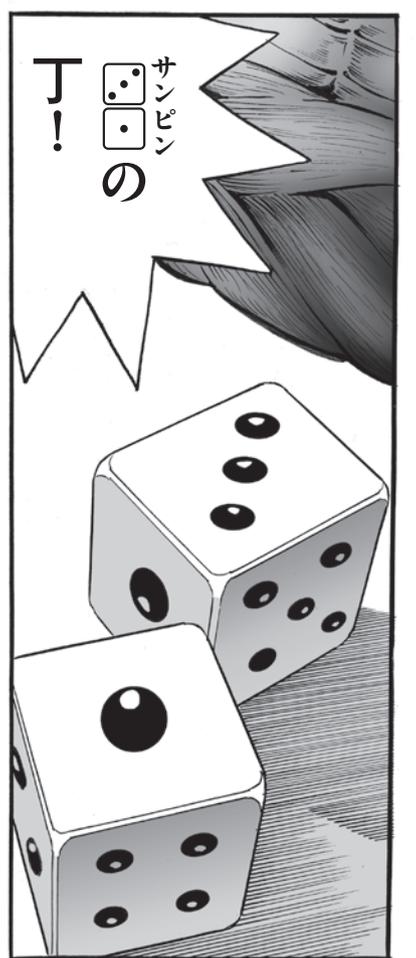
盆か…

※明治25年、関東で天然痘が大流行し死者は3万人を超えた。





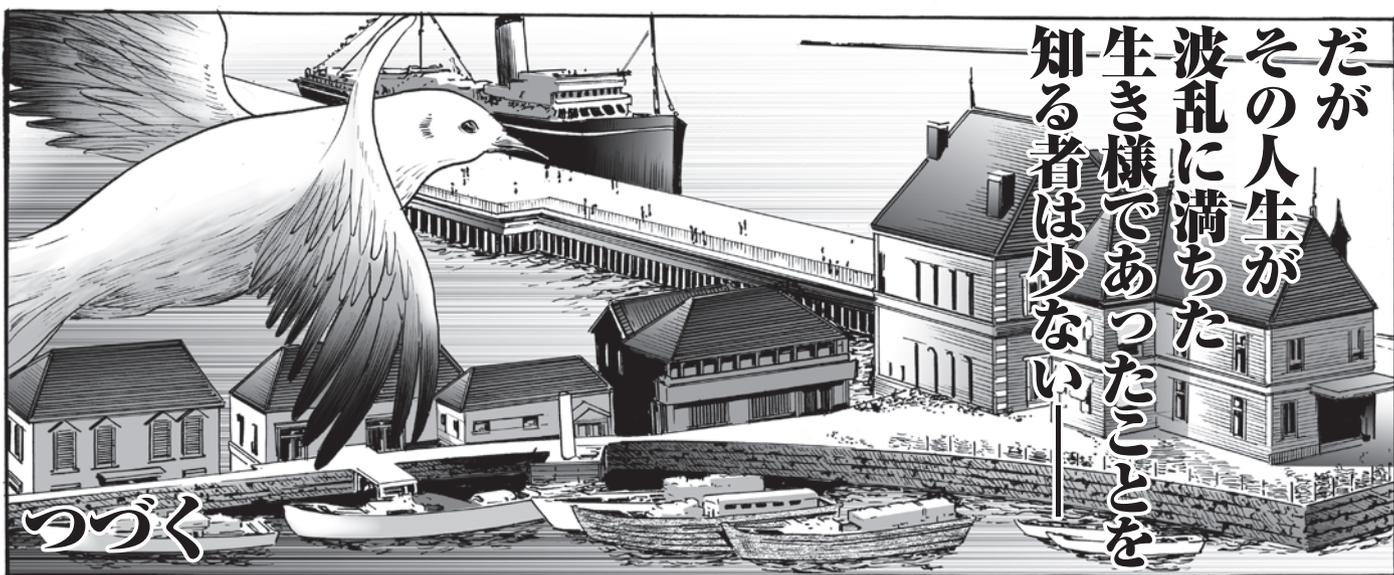




ここまで
すつきり負けりや
気持ちいいや

この男こそ海外刺青界で
「エンペラー」と称される彫師
彫千代である——

だが
その人生が
波乱に満ちた
生き様であったことを
知る者は少ない



つづく